

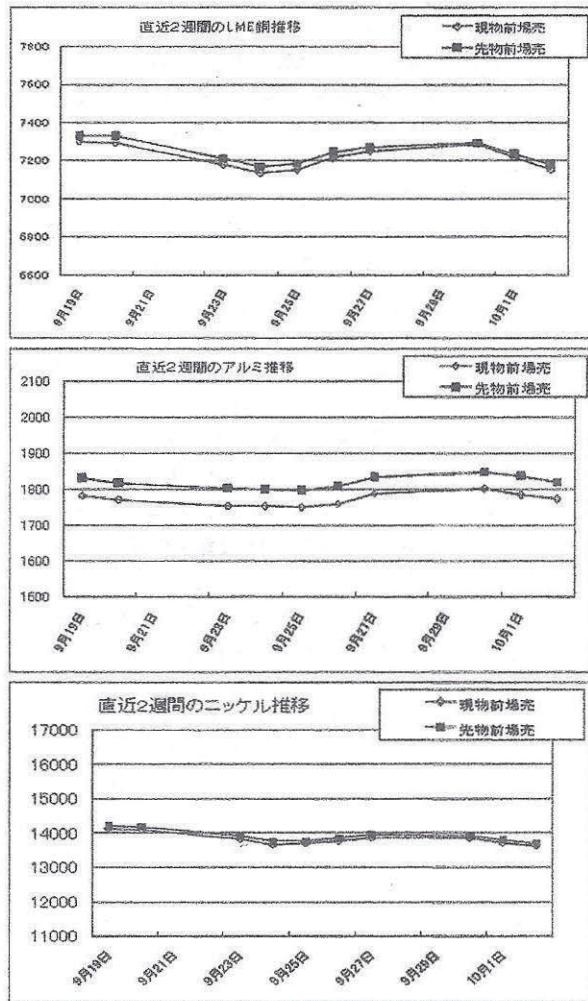
鉛は反動買いから後場上昇に
LME鉛相場は6ドル高の2,044ドルと反発。
前日下落の反動買いから後場上昇となった。

亜鉛は反動買いで小幅高
LME亜鉛相場は4ドル高の1,842ドルと反発。
前日下落の反動買いで小幅高となった。

アルミは安堵感から上昇
LMEアルミ相場は23ドル高の1,795ドルと反発。欧州指標とドル安で安堵感から上昇。
LMEアルミ合金は6ドル高の1,781ドル、北米特殊アルミ合金は5ドル安の1,820ドル。

ニッケルは前日と変わらず
LMEニッケル相場は前日変わらずの1万3,700ドル。米財務問題で下げるも反動買いで上昇し変わらずとなった。

KLTM錫は122.2セント続落
採算値は2万8,000円安
KLTM錫は122.2セント安の73.483Mドルと続落。USドルは110ドル安の2万2,990ドル、出来高は28トン。Mドル/USドルレート=3.1963とTTSレート98.34円で換算した採算値は2万8,000円安の226万5,000円、諸掛込みの採算値は2万8,000円安の242万5,000円。



橋本健一郎氏のアルミスクラップの9月レポートと10月見通し

■概況: 前半は8月の米ISM非製造業景況指数は58.6に上昇予想の55を上回ったこと、米の週間新規失業保険申請件数は32.3万件に減少し予想の33万件を下回ったこと、さらに2Qの米非農業部門の労働生産性指数確報値は前期比2.3%上昇に上方修正したことなどのプラス材料はあったものの米軍主導のシリアへの軍事介入草案が上院で可決されたことによる警戒感やバーナンキ米連邦準備理事会(FRB)議長の後任にサマーズ元財務長官を指名する方向で最終調整に入ったことから金融緩縮小ペースが早まるとの見解から下落し1753ドル(現物後場買い)と前月最終価格から12ドル下落しての前半締めとなつた。

後半はアメリカとロシアがシリアの核兵器廃絶に向けて法案で合意が難航していることや9月のNY連銀製造業景気指数は+6.29に低下、予想の9.10を下回るなどマイナス材料があったが、サマーズ元米財務長官が米連邦準備理事会(FRB)次期議長の指名を辞退したのを受け米国

緩和的な金融政策が長期化するとの見方やFOMC後の声明で予測に反して金融緩和縮小開始が見送られたことイタリア連立政権崩壊の危機からのドル安を好感。10月1日現在LME(現物後場)1808ドルと前半締めから55ドル上昇してのスタートとなつた。

■前月の経済指標: 日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比-7.6%の68万487台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+12.4%の32万4315台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比+8.8%の8万4343戸であった。

貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は、アルミ新地金が前年比+9.7%の158t、2次合金が+85.6%の1563t、スクラップが+14.4%の1万1558t。輸入は新地金が前年比-1.1%の14万8001t、2次合金が-11.7%の8万7062t、スクラップが-5.6%の613t、合金スクラップは+57.5%の4299t。また前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向

によれば板類・押出生産合計は前年比-1.4%の14万2141t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比+0.3%の6万98tであった。

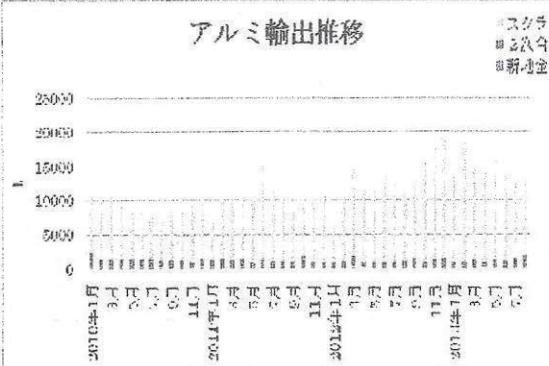
■見通し:9月はアメリカとロシアのシリアの核兵器廃絶に向けての法案で合意や米連邦政府の債務上限引き上げ問題に一喜一憂した月となつた。米国の強硬姿勢への警戒感や米連邦政府債務引き上げが不能となった場合の混乱への警戒感があった。自動車生産は前年比-6.4%の12カ月連続マイナスで、乗用車が-9.2%、トラックが+1.5%、バスが+11.7%。販売の方はついに前年超えとなる前年比+12.4%で、乗用車が+12.7%、貨物が+10.7%、バスが+13.3%。新設住宅着工戸数は先月に続き12カ月連続増加となる前年比+8.8%(前月比(季節調整済み)-1.9%)の8万4343戸。住宅関連は今月も堅調で、持家が+11%、貸家が+7%と大幅増となり消費税導入前の駆け込み需要と見られる。

自動車関連のアルミ2次合金生産は前年比+0.3%と2カ月連続プラス。圧延・押出品生産数は前年比-1.4%、2カ月ぶりマイナス。圧延に関してみると、缶材は+8%で8月のビール系飲料はマイナス(-2.8%)だったが第3のビール、缶コーヒーが好調。輸出は5カ月連続マイナスの-6.5%で中国への輸出が-31.2%だった。

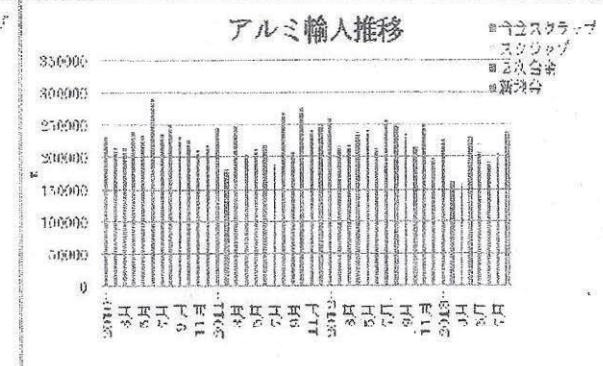
輸出は新地金が前年比+9.7%の158t、2次合金が+85.6%の1563t、スクラップが+14.4%の1万1558t。国内生産が低調だったことから新地金、2次合金、スクラップとも、大幅な円安を背景に輸出増との見解。輸入は新地金が前年比-1.1%の14万8001t、2次合金は-11.7%の8万7062t、スクラップは-5.6%の613t、合金スクラップは+57.5%の4299t。前月に続き新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、スクラップ

輸出	6月	7月	8月
新地金	30t	135t	158t
前年比	-74.1%	-17.7%	+9.7%
2次合金	1010t	1182t	1563t
前年比	+20.7%	+87%	+85.6%
スクラップ	13079t	13142t	11558t
前年比	+27%	-3.3%	+14.4%

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移



は国内自動車生産回復基調から上昇との見解。

アルミ需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+8.8%12カ月連続増加となり、持家が+11%、貸家が+7%と好調。待望の自動車は生産が12カ月連続前年割れの-7.6%。だがついに9月の国内販売台数が前年比+12.4%と大幅増。販売増につられて生産が伸びるのもほぼ確実で住宅、自動車の2本柱が復活した今後供給不足が拡大するの可能性が高い。

LME価格に関しては、今月は米債務上限引き上げ問題と米FRB金融緩和縮小開始そしてイタリア連立政権崩壊懸念に伴う欧州ショックに左右される。債務上限引き上げ問題は前回同様解決することはほぼ間違いない時間の問題。金融緩和縮小も発言が二転三転しておりマーケットも若干織り込み済みでは。欧州ショックに関しては景気回復は進んでおりマイナスは限定的との判断。それらを踏まえた価格は債務上限引き上げによるドル安からもう一段高の9月後半高値付近1850ドルを予測。下値はFRBによる金融緩和縮小開始とイタリア連立政権が崩壊が起こった場合に9月最安値のもう一段安の1750ドル割れを予測。スクラップ価格については上記条件によってLME価格さほど大きく動かないとの予測の中で住宅、自動車販売の堅調や消費税増税前の駆け込み需要からの需給ひっ迫から0~+5円上昇するとの予測。

	6月	7月	8月
生産台数	89万3145台	91万114台	68万487台
前年比	-9.5%	-1.5%	-7.6%
7月		8月	9月
販売台数	28万4314台	21万7411台	32万4315台
前年比	-13.5%	-6.4%	+12.4%
	6月	7月	8月
新設住宅着工数	8万3704戸	8万4459戸	8万4343戸
前年比	+15.3%	+12%	+8.8%
	6月	7月	8月
輸入			
新地金	11万2736t	11万4718t	14万8001t
前年比	-6%	-2%	-11%
2次合金	7万7218t	8万5951t	8万7062t
前年比	-15.1%	-9.3%	-11.7%
スクラップ	489t	804t	613t
前年比	-28.8%	+62.1%	-5.6%
合金スクラップ	3273t	4082t	4299t
前年比	-15.7%	-51.7%	+57.5%